

Vol.90

2012年 3月号

やらばあ

ふみだそう、福祉でまちづくり

希望の詩(うた)

あの日すべてが奪われたけど
人のつながりは強くなった
そんな貴方(あなた)たちの
強さに勇気づけられた

目の前にあるのは
乗り越えるべき壁
僕らが貴方たちの力に
なることはできないかもしれない
もしそうだとしたら

伝えたい
当たり前の幸せを教えてください
願っている
生活と笑顔を取り戻せるように
そして

忘れないで
僕たちが応援しているということ

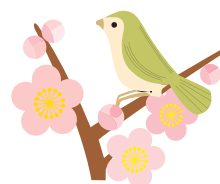
何かできるなら
僕らの思いが届くなら
つながることができるのなら
貴方たちと一緒に日本の未来に
大きな花を咲かせる日まで

(東部中学校生徒会)



春の訪れ...

日本中に穏やかな春が訪れますように



東日本大震災から一年。本屋さんで何気なく見ていると「震災で本当にあった泣ける話」の見出しが目にとまり立ち読みし購入。掲載の三十有余のエピソードの中の「暴走族を解散してボランティア活動」に心が動いた。

暴走族の少年がバイクで走行中に震災避難所の隅で小さくなつて座っていると、見回りに来た、以前補導されたことのある警察官から「飲み水はあるかい？」少年はぶっきらぼうに「あ、ああ」。日暮れの頃、知らないおばさんが「寒いでしょう。これ」と、上着を肩にかけてくれた。「ありがとう...」ぎこちない言葉。少年は「ほんの小さな心遣いがこんなに人を幸せにするなんて」。少年の名前を呼ぶ両親の大きな声。「怪我はないか？よかった、よかった」と抱きしめる母親。「暴走族の仲間以外は全部敵だ」そう思っていた少年の心が変化。後日、暴走族の仲間に「解散してボランティアをしたい」と話すと、仲間も共感。解散してボランティアを始める。少年は炊き出しのお手伝い。炊き出しに並ぶ人たちから毎回、「ありがとう、ありがとう」と言われる。自分が今まで迷惑をかけてきた人たちから、感謝されるなんて思ってもみなかったのだ、その言葉が少年のさらなる力となる。

ありがとうの 感謝の言葉

笑顔となる 魔法の言葉

たった一言が 相手の心を傷つける

たった一言が 相手の心を癒す



震災から一年 今までとこれから

茅野市社会福祉協議会はボランティア・市民活動センターを中心に震災直後から被災地の状況に注意しながら支援活動を展開しています。

これまでの対応は以下の通りです

- 救援物資の受付と発送
毛布・おむつ・カイロ・衣類等
- 義援金 5,621,125円 ※H24.1.17現在
- 災害ボランティア活動支援
ボランティアの登録・ボランティア活動保険の手続き及び東北地方での活動支援（全5回）
- 職員派遣
東北地方及び長野県栄村
- 「思い出づくり応援隊（ふくしまっ子の夏休み）」募集・参加
福島県から来て市内に滞在した813名の親子との思い出作りボランティアへの参加
- 「ひとにぎりのお米（支援米）」募集活動
市内の避難世帯と被災地に支援米を配布



一歩踏み出した活動 ～私たちこんなことをしています～

東日本大震災は大規模な地震そのものの被害もさることながら、津波、原発、風評とまさに未曾有の被害をもたらしました。1年が経ち、復旧は少しずつ進んでいるようですが、復興には大変長い時間を伴うことは避けられません。そうした中、テレビの報道等を見るたびに、「今、私たちにできることはないか」そう思いながら、どんな行動を起こしたらいいのかわからずにいる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回は同じような思いから“一歩”具体的な行動に移ったみなさんの活動の内容、それぞれの思いなどをお聞きしました。

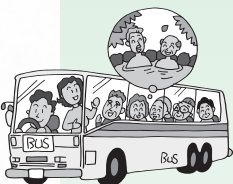
食べて応援 見て応援 泊って応援

農協観光諏訪営業支店

「物見遊山でもいいから、まずは被災地に行って現地の状況を見てください。そして、現地のおいしいものを食べ、おいしいお酒を飲んで、お土産をたくさん買ってください。」これは、現地のあるホテルの支配人さんの言葉です。

苦しんでいる観光地に迷惑してあげたいという気持ちと、世間の認識はどうなんだろうとの気持ちをふっやる言葉でした。

東北地方への迷惑が旅行会社としての使命と感じ、現地に行くことが直接的また泊って食事することで現地の農家への支援になると考え「食べて応援・見て応援・泊って応援」を実施し、東北の復興の一助になればと思います。



離れていてもできること

K・Sさん

被災地で仕事（水産）を失った女性たちが、自ら、復興支援の活動に取り組んでいる話を聞き、そこで作っている手作りの小物を購入しました。遠く離れた土地からでも自分ができる支援につながると感じます。



これからもずっと…

O・Yさん

被災者の方と同じ時代を生きていながら、その場に行って支援することができない…けれど何とかして思い・心を送りたい。

それで、毎月少しでもお小遣いの一部を日赤募金を通じて送っています。少しでも力になりますように。

心の友

Y・Kさん

怖くて連絡が取れていなかった被災地の友だちと連絡が取れた時「自分に何ができるのかもわからなかったし、何より怖かった」と言うと、「すべてを失ってこちらからは連絡がでなかった」と明かされました。

自分が情けないと思っていた時「何かをして欲しいなんて思っていないよ。心の友でいてくれればいい」と言われました。物やお金ではないけれど、こんな私でも支えになればいいと思いました。



被災地の海産物購入で支援！

K・Cさん

たまたま、石巻の海産物を購入したところ、とってもおいしかったのでまた買ってみようと思いついたのがきっかけ。

それまで、被災地の方が元気になれるよう具体的に支援できることはないかと思っていたので、ちょうどよかった。しかも、とにかく味がおいしい！！

お友だちも共感し時々一緒に注文しています。

店も、自宅も津波に流されてしまったけど、やっぱり再開したい！と再開を決めたのだそう。今後も日常に織り混ぜ支援を継続していけたらいいと思っています。



とどけ！「希望の詩（うた）」

東部中学校生徒会

東部中学校では、震災直後から生徒会を中心に支援の取り組みが始まりました。生徒や教職員からの義援金を寄付したり、校内において節水・節電に取り組む月間を実施。土壌から放射性物質を吸収するといわれるヒマワリの栽培も行いました。

こうした中、“自分たちにできること”を生徒会で話し合いを重ね、被災地へ思いを込めた歌を作りました。『希望の詩（うた）』と題されたこの歌は練習を重ねて、12月に録音され、石巻市や南三陸町の学校へ届けられます。

※歌詞は表紙にあります。



被災地の方々から「どうか忘れないでいてほしい…」という声を耳にする中で、茅野市社協では、今後も被災地への直接的・間接的支援の両方に取り組んでいきたいと思っています。中でも、支援活動をする市民の方々が、それぞれの経験・思いを語ることを通して自らの体験を振り返り、それを聴く地域の方々と学びや思いを共有できるような福祉教育（学習）を丁寧に実施していきたいと思っています。また、それと共に継続的な被災地支援、地域の地域福祉、防災・減災につなげることも展開していきたいと考えています。

今後も皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成23年度 赤い羽根共同募金の報告

総額は**10,005,603円**でした。ご協力ありがとうございました。

皆様からご寄付いただいた募金のうち、3,595,000円が県内の福祉施設などに配分され、6,410,603円が茅野市へ配分されます。市内では各地区の地区社会福祉協議会活動を始め、地区民生児童委員協議会、高齢者クラブ、母子父子福祉会、身体障害者福祉協会、遺族会、地区子ども会育成会などの活動に充てられています。

◆各地区の戸別募金 単位：円

ちの	1,464,113
宮川	1,309,952
米沢	427,665
豊平	750,900
玉川	1,468,123
泉野	311,643
金沢	443,701
湖東	406,080
北山	549,086
中大塩	243,903

◆各地区の法人募金 単位：円

宮川	514,000
米沢	185,700
豊平	302,000
玉川	237,000
泉野	98,000
金沢	206,000
湖東	330,000

◆学校の募金 単位：円

永明小学校	11,895
宮川小学校	14,921
豊平小学校	12,381
泉野小学校	6,102
金沢小学校	5,274
永明中学校	4,712
長峰中学校	9,114

◆その他の募金 単位：円

ちの地区高齢者クラブ	140,699
宮川地区高齢者クラブ	164,018
玉川地区高齢者クラブ	130,000
泉野地区高齢者クラブ	40,282
金沢地区高齢者クラブ	69,319
北山地区高齢者クラブ	63,239
中大塩地区高齢者クラブ	17,000
縞枯山荘	27,874
ボーイスカウト茅野第一団	20,000
その他	20,907



1月号 お年玉クイズ の答え

Q1

しゃきょう
社協ってなーに？


A1

③ 社会福祉法人 社協について、市役所の部署の一つに思われている方も多いかもしれませんが、独立した法人です。昭和43年4月13日に法人化されました。

Q2

社協のイメージキャラクターはどれ？

A2

②  「差し出す手・差し伸べる手」を意味し、社協の「シャ」と幸せそうな歌声の「ラララ…」を合わせて「シャララ」といいます。

Q3

誰もが安心して暮らせるまちを
目指して市内10地区でまとめられた計画は？

A3

① 地域福祉行動計画 地域福祉行動計画は地域住民一人ひとりにとって「誰もが尊重され、安心して暮らすために何を大切にしたいか」を地域に暮らす人たちが課題を出し合い、みんなで考えつくられたものです。

Q4

東日本大震災で社協の募集により、宮城県石巻市へボランティアとして行かれた方の延べ人数は？
(4月、5月、7月、9月、11月に活動)

A4

② 76人

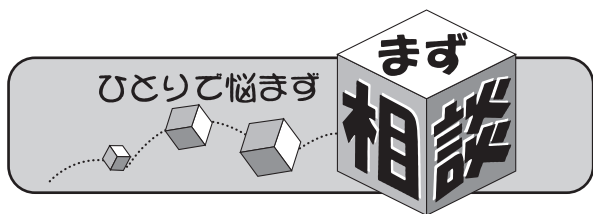
Q5

東日本大震災で茅野市と社協に寄せられた義援金の総額は？(10月末現在)

A5

② 約900万円

たくさんのご協力
ありがとうございました。
今後も引き続きご支援を
よろしくお願いします。



人生には様々な悩みがあります。だれにも相談できない、どこに相談したらよいかわからない。そんなときは、まず社協にお電話ください。

心配ごと相談

どんなことでもご相談ください

毎週金曜日 午前9時～正午

相談員：心配ごと相談員

心の悩み相談には、事前の予約が必要です。

(カウンセラー、精神保健福祉士が対応)

結婚相談

結婚を望まれる方の相談窓口

毎月第1・3土曜日

午後1時～午後4時

第2・4金曜日

午後6時30分～午後8時30分

相談員：結婚相談員

司法書士の法律相談（予約制）

身近な法律に関する相談

毎月第2水曜日 午後3時～午後5時

相談員：司法書士 予約電話／73-4431

あなたと家族の悩み相談 ～家族のサポートライン～

ご家族を亡くされた方、病気に直面されている方
ご相談ください

毎月第1・3月曜日 午後2時～午後4時

相談員：ボランティア

直通電話／82-0400

福祉やボランティアについての相談

月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時30分

電話／73-4431 FAX／73-8030

相談は、総合福祉センター3階の相談室
または1階の社協事務所までお越しください

社協情報紙 **やらざあ** Vol.90
2012年 3月号

2012年3月1日

発行／社会福祉法人 茅野市社会福祉協議会

編集／やらざあ編集委員会

〒391-0002 茅野市塚原2-5-45

TEL (0266) 73-4431

FAX (0266) 73-8030

URL: <http://sharara.or.jp>

E-mail: support@sharara.or.jp

社協情報紙 **やらざあ** の発行にはみなさんの会費が使われています。

読者の声

- ・待望の第二子を授かりました！今、つわりがあり寝ている時間が多く、小学校の娘と主人に助けってもらっています。元気に生まれてこいよー 3人で待っているよー！ (30代 女性 中大塩)
- ・毎号の「やらざあ」を楽しみにしています。彩りもきれいで、クイズも少し難しいところが逆にハガキを書きたくしてくれます。 (40代 男性 湖東)
- ・金田和尚の“みなさんに伝えたい人生の道しるべ”を大変興味深く読ませていただき、ありがとうございます。 (40代 男性 湖東)
- ・娘が仕事の時に孫の勉強もみてやりますが、昔より早くいろいろ覚えなくてはならず子どもも大変です。でもやらざあね。 (70代 女性 玉川)
- ・金田和尚のつぶやきは毎回楽しみに読ませていただいております。これからも継続を。 (60代 女性 湖東)

買い物代行サービス

買い物にお困りの方に代わって買い物をします。詳細はお問い合わせください。説明にお伺いします。

ライフサポートの

おてつだい家族

茅野市仲町12-16

株式会社ミット

電話 73-8731 FAX 73-8730



今月は

なぞなぞ



駐車場に1～9まで番号が書いてあります。
どうしても車が止まらない場所は何番でしょう？
理由も書いてね。

応募要領

クイズの答え、住所、氏名、年齢（年代）、電話番号に社協へのご意見、ご要望、やらざあ感想、つぶやきなど一言添えて社協までお送り下さい。正解者の中から抽選で3名の方に図書カードを差し上げます。

応募締め切り

3月末日

当選者

保科さつきさん（中大塩） 矢崎 洋さん（湖東）

当選された方には図書カードをお送りいたします。たくさんのご応募ありがとうございます。

